

アデレードでの情報伝達の工夫（平成27年11月）

岡山県と南オーストラリア州の友好交流縁組は、1993（平成5）年に締結されました。同じ年に開設された岡山県立大学では、州都にあるアデレード大学と平成26年9月に学術交流協定を結びました。学生を派遣しての英語や専門分野の研修に加え、教員の共同研究や国際シンポジウム開催に向けた準備等を、現在積極的に進めています。先頃、その協議等のためにアデレードを訪問する機会がありました。

南半球に位置するため、アデレードは間もなく夏を迎えます。郊外に出ると、ユーカリ等の大木の向こうでは、青空のもとでワイナリーの葡萄畑が広がっています。コアラやカンガルーなどの珍しい動物たちとの触れ合いも、また格別です。

オーストラリアは、歴史的にも、近年の状況を見ても、移民を始めとした海外からの来訪者が大変多く、多種多様な民族と文化、そして言葉にあふれています。また、アデレードにある3つの大学は、いずれも留学生の占める割合が非常に高く、比較的長期の外国人滞在者がかなりの数に上ります。こうした多様なバックグラウンドを持った人々への情報伝達は、もちろん英語によるものが第一となります。しかし、あまり英語が得意でない人への対応も大変重要です。日本語や中国語、アラビア語など、それぞれの母国語での通訳や翻訳はもちろん行われていますが、今回あらためて気付いたことは、どんな人でも容易に理解ができるようにするための工夫です。

ピクトグラム（絵文字、絵単語）は、トイレや非常口、空港などを分かりやすいサイン等で示したものです。言葉や文化を越えた普遍性があるため、一目で理解できます。こうした考え方に倣ったのですが、アデレードでは、写真や標語等を活用しながら、行政がお願いや啓発をしたいことを分かりやすく示したポスターを、随所で見かけました。

小中高校や大学で見た食育のポスターは、たくさん飲食して欲しい物（野菜、果物、牛乳等）を緑色で、注意深く選んで欲しい物（ハンバーガーやケーキ等）を黄色で、食べて欲しくなくて学校の売店では扱わない物（フライドポテト、チョコレート等）を赤色で写真と一緒に表示しています。小さな子どもも英語が苦手の人、もしっかり理解できます。



地域で子育てを支援する施設では、3つの興味深いポスターに気付きました。「子どもがケガをする10の原因」「子どもをほめる時の100の方法」「父親の子育てへの関わり方113」です。注意を引きつけるタイトルの付け方に工夫が感じられます。



他の保健福祉施設で見た「禁煙で得られる利益」というポスターの「1週間後：味覚が改善します」「1ヶ月後：皮膚が美しくなります」「3ヵ月後：肺の機能が向上します」「1年後：心臓病のリスクが半減するとともにタバコ代70万円の節約になります」という説明には、納得するとともに苦笑してしまいました。

多文化が共生する社会では、人権への配慮も重要です。言葉が不自由なために、いわれのない差別を受けてはなりません。精神病患者を地域で支援する施設内には、「あなたの権利を知ろう」というポスターが掲示されていました。「支援を受ける権利」「虐待を受けない権利」「尊厳をもって扱われる権利」「秘密を守ってもらう権利」「訴える権利」などが、簡潔に分かりやすく説明されていました。

ひるがえってみて、岡山での状況が少し心配になりました。社会のグローバル化が一層進む中、言葉のみならず、文化や価値観も多様な人々が、同じ地域で仕事や学習、生活等を共にしています。それら全員がしっかりと理解できるよう、効果的な情報伝達について、更なる工夫が求められていると思います。